

コンテナーマッチングセンターの 挑戦と取組

日本通運株式会社

海運事業部

ロジスティクス企画

2014/10/28

With Your Life



マッチングセンターの取り組み & 挑戦

1) 昨今の輸送環境

- ★ドライバーの高齢化
- ★ドライバー不足

2) 企業の社会的責任

- ★CO2削減
- ★CSR活動

3) 燃油の高騰

- ★モーダルシフト
- ★通運の見直し

4) ターゲット

- ★挑戦と取組 「鉄道 & ドレージ複合ターミナル」

5) その他 資料

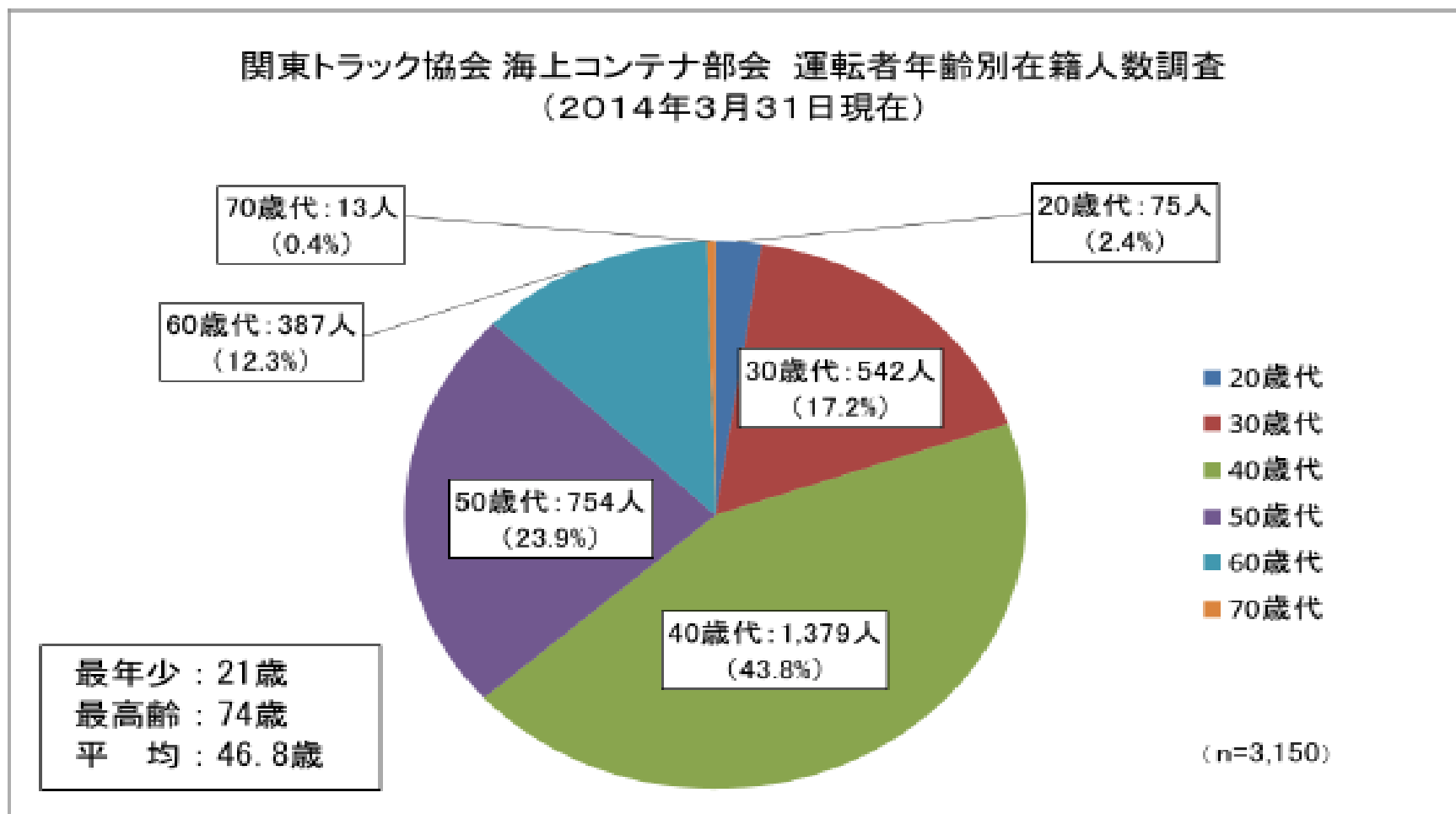
(1) 昨今の輸送環境

深刻な労働者不足

ドライバーの深刻な高齢化

★40歳代＋50歳代で67.7%！

★20歳代はなんと2.4%！！



1) 潜在的な要因

- ・若年層の人口減少
- ・ドライバーの高齢化

2) 仕事環境の変化

- ・お金く生活・自分の時間
- ・3K きつい！汚い！危険！

3) 長時間労働、長距離輸送はNG！

- ・2012年の長距離バス的高速事故

(2) 企業の社会的責任

CO2削減

CO2削減 & 社会貢献

日本通運グループ行動憲章

制定 1999年 8月

改定 2003年10月

改定 2011年 4月

日本通運グループは、持続可能な社会の創造に向けて、以下の原則にもとづき、それぞれの事業活動を通じ、企業の社会的責任を果たしていきます。

(地球環境への責任)

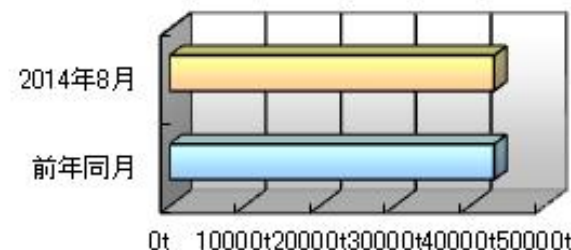
- 地球環境の保全は、人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、積極的に環境経営を推進します。

CSRの広場

■ 全社CO2排出実績(グラフ)

2014年8月 CO2排出量

[詳しくはこちら](#)



前年より減少



日本通運のCSR活動

With Your Life



日本通運グループ環境憲章

制定2001年5月10日

改正2010年4月1日

改正2012年4月1日

<基本理念>

企業の社会的、公共的使命を自覚し、「良き企業市民」として環境経営を実践することにより、地球環境保全に積極的に貢献する。

<行動指針>

地球環境保全は人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的・積極的に地球温暖化防止、生物多様性の保全、循環型社会の構築等に取り組む。

1. グリーン物流を推進する。

- ・環境にやさしい物流の実践を通じて、温室効果ガスの削減等環境負荷低減を目指す。
- ・環境配慮型商品・サービスや梱包資材の開発に努める。

2. 資源・エネルギーの効率的活用を努める。

- ・省資源、省エネルギー、3Rの推進による循環型社会の構築に努める。
- ・再生可能エネルギーの利用を拡大する。
- ・お客様の循環型社会への取組みを支援する。

3. 環境関係法令を順守する。

- ・省エネ法や自治体条例等環境関係法令に的確に対応する。

4. 環境人材を育成する。

- ・環境マインドを持って、戦略的環境経営を実践していく人材を育成する。
- ・環境教育、環境保全活動を通じて、環境人材を育成する。

5. 環境社会貢献活動を推進する。

- ・環境保全や次世代への環境教育の分野で社会貢献を果たす。

6. 環境に関する取組みを広く社会に発信する。

- ・環境に関する取組みについて積極的に情報発信し、社会とのコミュニケーションに努める。

7. 環境経営推進システムの継続的改善を図る。

- ・全社的に環境経営推進体制を整備し、その機能の充実に努める。
- ・環境への取組みを継続的に改善し、環境経営の効果的推進を図る。

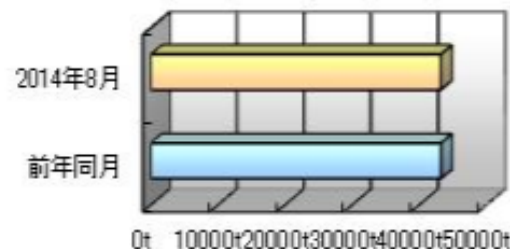
CO2削減 & 社会貢献

CSRの広場

■ 全社CO2排出実績(グラフ)

2014年8月 CO2排出量

[詳しくはこちら](#)



前年より減少



(3) 燃油費の高騰

モーダルシフト

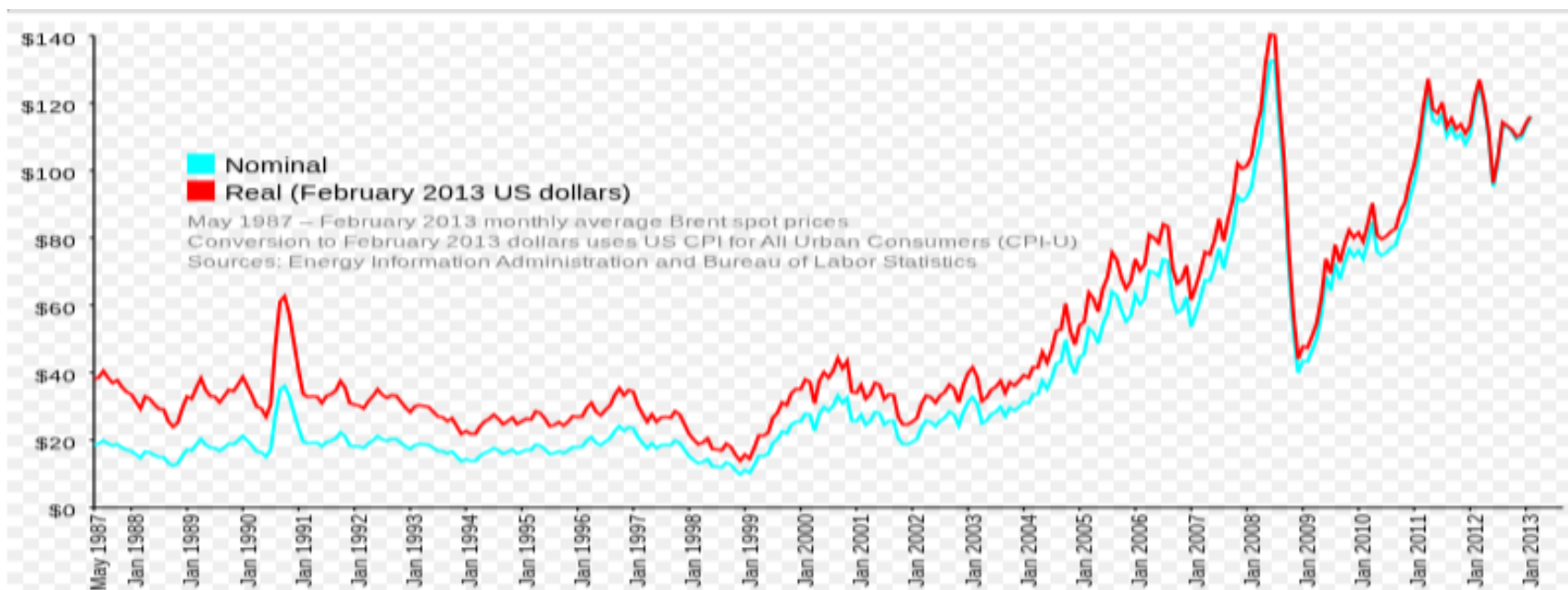
燃油価格の高騰

With Your Life



燃油価格の高騰は続いており、利益構造は悪循環のサイクルを抜け出せない！

ドライバーの高齢化 → 人件費高騰
燃油高騰 → トラックコスト増加



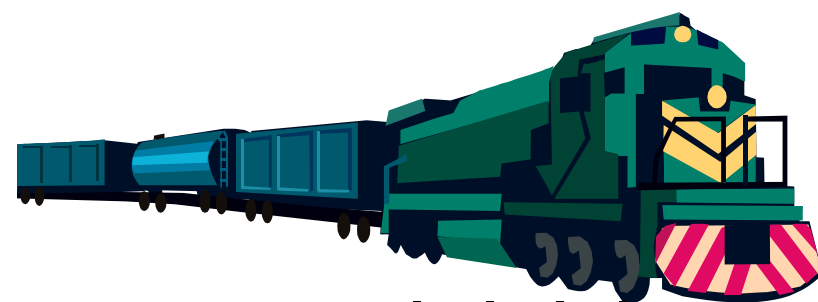
「通運」事業の見直し

With Your Life

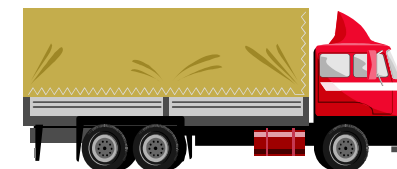


- ① 荷物を運ぶこと。運送。
- ② 荷主と鉄道の間で介在して荷物を鉄道に託送したり受け取ったりすること。

日本通運(株)



貨物ターミナル



4) ターゲット

コンテナーマッチングセンターの
挑戦と取組

鉄道 & ドレージ
複合ターミナル

JR鉄道利用マッチング

With Your Life



「複合デポ構想について」

※詳細内容はJR貨物と協議中



<機能>

- ★鉄道&ドレージの複合デポ
- ★鉄道輸送の推進
- ★コンテナマッチングの推進

21:35 南長岡CUT → 0:21 南長岡発 → 5:07 隅田(東京) → 13:55:~引き取りスタート 大井JR貨物駅(東京)

13:40 大井(東京) → 18:58 隅田(東京) → 23:00 隅田(東京) → 5:00 南長岡着

15:50 大井(東京) → 20:50 隅田(東京) → 23:00 隅田(東京) → 5:00 南長岡着

「南長岡複合デポ」位置関係



デポの機能

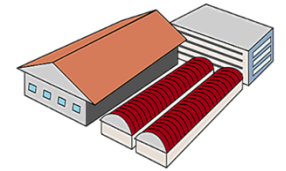
現行デポ



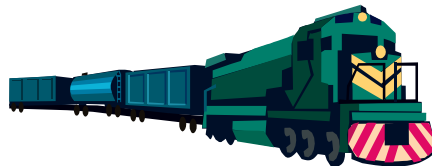
インランドデポ



CROSS DOCK POINT



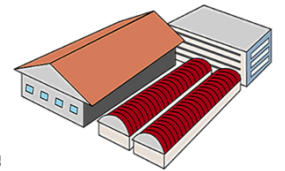
複合(鉄道&ドレージ)デポ



インランドデポ



CROSS DOCK POINT



鉄道導線を長く!

自動車導線を短く!

低
2014/10/28

CO2削減&モーダルシフト増加曲線

高

5) その他資料

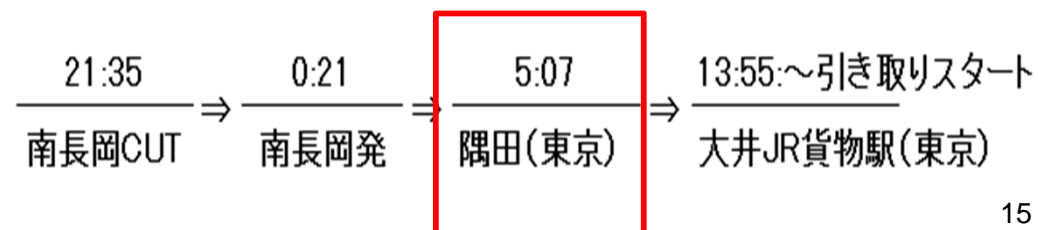
定期運行率

期間	ルート	遅延率	定時運行率
平成25年下期	南長岡⇒東京夕	3.57%	96.43%
平成26年上期		2.44%	97.56%
年間		2.98%	97.02%

※2時間以上の遅延対象

バックアッププラン

- (1) 東京隅田夕からのドレージ輸送
- (2) ドレージに切り替え





お問い合わせ先

日本通運株式会社

海運事業部 ロジスティクス企画グループ

担当：犬井・宮崎・安田

電話：03-6251-1620

Mail : ta-inui@nittsu.co.jp

ma-miyazaki@nittsu.co.jp

ge-yasuda@nittsu.co.jp